

福井の文化と社会

科目名/提供大学名	福井の文化と社会／福井県立大学
科目名(英文)	Culture and Society of Fukui
対象学年	1・2・3
開講時期	後期
単位数	2
科目区分	選択
授業形態・開講形態	講義
担当教員名	岩崎 保、北島 三男
オフィスアワー	講義の前後に質問等を受け付けます。
教員メールアドレス	t.iwasaki@t-catv.co.jp(岩崎) kazuline@hotmail.co.jp(北島)
概要	授業の第1部は岩崎が担当、第2部は北島が担当し、「福井県」について知識を深める。テレビ局出身の岩崎は、概論として福井県や各市町の現状、そして福井の産業などのテーマを通して福井の今をアトランダムに話す。また、福井県のブランドについてグループワークによる情報収集と発信の体験も行う。新聞社出身の北島は、少子高齢化、過疎化が進む地方、地域をどう持続可能なものにしていくかの観点から、「地域おこし」「地域文化の磨き込み」をテーマに専門家等を招き深掘りする。ゲストスピーカーの話を受けて議論を展開。自ら考える機会を創出する。
授業目標・目的	石川県金沢市には「金沢学」のようなものがあり、その地での生き方と文化目標が見える。日本人は、強い経済社会を戦後一貫して目指してきたように思うが、楽しく、明るく、福井の特色を踏まえて時代の中で暮らしていく豊かさが失われていったのではないかと。まず福井を、ふるさとを知ろう。知れば知るほど奥行きを深さを感じてほしい。そして、未来の「主役」である受講生たちに、自ら考え、行動してもらうことを主眼にした授業にしたい。
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)	<input checked="" type="checkbox"/> 自他の理解能力 <input checked="" type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> 情報収集・探索能力 <input checked="" type="checkbox"/> 社会・職業理解能力 <input type="checkbox"/> 役割把握・認識能力 <input type="checkbox"/> 計画実行能力 <input type="checkbox"/> 選択能力 <input type="checkbox"/> 課題解決能力
学生の目標・到達目標	福井について知識を深めることで、福井の良さや考えるべきことを見つけ、合わせて暮らしている郷土への誇りや愛着を持つ。そして、福井が有する特徴・特色、課題について検証・考察することで、これからの時代への関心を高める。
授業計画・授業内容	<p>第1部・福井県の現状と課題(担当:岩崎)</p> <p>第1回 福井県の生い立ち—誕生から今日まで</p> <p>第2回 福井県の17市町はこんなところ—観光・特産など</p> <p>第3回 福井県のブランド発掘・発信Ⅰ—魅力を探そう(グループワーク)</p> <p>第4回 福井県の産業にみる技と力—伝統から先端まで</p> <p>第5回 福井県の就職の実情—企業からみた社員像</p> <p>第6回 福井県のブランド発掘・発信Ⅱ—魅力を情報発信しよう(グループワーク)</p> <p>第7回 福井県の課題—いま考えておくべきこと</p> <p>第2部・質の高い福井をどう磨き、発信していくか(担当:北島)</p> <p>第8回 新聞記者の視点—現代社会の実相をどうとらえるか</p> <p>第9回 「夢の原子炉廃炉」の教訓—中央・地方メディアはどう伝えたか</p> <p>第10回 地域おこしの実態—県外の若い協力隊が「現場」を語る</p> <p>第11回 外から見た福井とは—県庁広報で活躍、発信する外国人女性</p> <p>第12回 歴史的遺産子、生かせ「進取の気性」—歴史文化学者の視座</p> <p>第13回 ハイクオリティーのものづくり—世界をにらむ酒づくり</p> <p>第14回 自然を歩くエッセイストの目—香り高い文化いつまでも</p> <p>第15回 地方の魅力って何だ—レゲエ歌手が熱きメッセージ</p> <p>この講座は体系化されたものではありません。福井をより深く知る上で役立つことを目指しています。多少内容や順番の変更はありますが、「福井の文化と社会」について歴史、現状、展望を語っていきたくと考えています。「起承転々」であって、「結」はありませんので、ご了承ください。都合により一部内容が変更になる場合もあります。</p>
授業方法	
キーワード	福井を知り、日本を知ろう
教科書	資料を配布します。
参考書	レジメなどに示します。
評価方法・評価基準	試験またはレポートによります。授業中に質問や意見を述べてもらう場合もあります。
関連科目	
履修の要件	
必要な事前・事後学習	
その他・注意事項	必要に応じてゲストスピーカーを招くことがあります。準備学習については、講義時に教員より指示する。